

## 明日香村地域おこし協力隊活動報告書 2025年8月 徳力一志

今年の夏は降雨量が少なく、全国の農家が水不足や猛暑に悩んでいるようです。明日香村ももちろん例外ではありません。水は山から生まれますが、現在進行形で山の環境を破壊している人もいるという事実にはやるせなくなります。



写真左から早生、中生、晩生の稲の姿です。早生のゆうだい21は稲穂を付け始め、中生であるヒノヒカリも出穂してきました。晩生の朝日はまだみたいですね。先月取り損ねた雑草たちは稲を超える大きさに育ち、除草も一苦労です。後は収穫まで水不足、高温障害、病気、獣害に怯えながら待つこととなります。



厳しい猛暑ですが、殺菌消毒や発酵にはうってつけで、畑の太陽熱消毒を実践しました。この際に酵母菌の働きで土がふかふかになるので、酵母菌の餌となる納豆菌や麦芽、竹チップなどをふんだんに混ぜ込み、透明マルチで蓋をしました。いくつかのパターンで実験している側面もあり、経過と結果が楽しみです。



自家製たい肥づくりも行いました。麦芽、竹チップ、もみ殻燻炭での作成に挑戦しました。一番の理想は身の回りで日々の営みによって生まれる有機物の再利用です。しかし栽培で利用するためには再現性が必要であり、微生物の複雑な働きをコントロールしきるのはとても困難です。今回のような試みの果てにいつか実を結ぶことを信じて、理想のために研究し続けようと思います。